

実心実学の提唱

東アジア実学シンポを終えて



小川 晴久

今月十四、十五の両日、私の勤務する大学の支援を得て一実心実学思想と国民文化の形

成」と題する国際シンポジウムが開かれました。日中韓三国の十七世紀から十九世紀まで

の思想を、共通に「実心実学」と捉えてみよう、それを国民の意識にまで高めようという趣旨で開いたものです。日本では江戸時代に当たりから、その思想を「実心実学」と捉えようという呼びかけとなりました。東アジア三國から十七名の研究者が、この主題の下に講演、発表、総合討論を行いました。

現在日本で実学と言えは実用の学、応用の学を意味

します。しかし東アジアの近代以前にはもう一つの実学概念がありました。それは儒学を意味しました。儒学は儒学を意味しました。儒学は儒学を意味しました。儒学は儒学を意味しました。

前記「中庸」に「誠は天道なり。これを誠にするは人の道なり」という有名と納得しました。天は自然な命題があります。長い間は誠を人間の概念と考へてきましたので、この命題を自然を対象化できていな

ば、芽を出し、花をさかせ、実を結びます。この必然的過程は、実の中に誠があるからだと言います。樹

木は長い間、後者の意味がわかりませんでした。しかし、「二」に言う「人道」を追求する余り、人類は地球の生態系を破壊することまで来ていることがわかり、地球の生命(生態系)を守るために、天道(誠)の優位性にたかえらなければならぬことを確信するに至りました。

三浦梅園はすべからず自然哲学者でしたが、誠を何よりも大切にしました。同じ時代の朝鮮の天文学者(宇

宙無限論者)洪大容も実心を強調しました。地球を発見し、実心を大事にした実心実学は、十七・十八世紀の東アジア共通の良質な思想遺産です。地球の生態系を守るために実心実学から学ばなくてはなりませんか。

(おかわ・はるひさ)二松学舎大学院教授、東アジア思想史)

今月十四、十五の両日、私の勤務する大学の支援を得て一実心実学思想と国民文化の形

成」と題する国際シンポジウムが開かれました。日中韓三国の十七世紀から十九世紀まで

の思想を、共通に「実心実学」と捉えてみよう、それを国民の意識にまで高めようという趣旨で開いたものです。日本では江戸時代に当たりから、その思想を「実心実学」と捉えようという呼びかけとなりました。東アジア三國から十七名の研究者が、この主題の下に講演、発表、総合討論を行いました。

現在日本で実学と言えは実用の学、応用の学を意味

します。しかし東アジアの近代以前にはもう一つの実学概念がありました。それは儒学を意味しました。儒学は儒学を意味しました。儒学は儒学を意味しました。

前記「中庸」に「誠は天道なり。これを誠にするは人の道なり」という有名と納得しました。天は自然な命題があります。長い間は誠を人間の概念と考へてきましたので、この命題を自然を対象化できていな

ば、芽を出し、花をさかせ、実を結びます。この必然的過程は、実の中に誠があるからだと言います。樹

木は長い間、後者の意味がわかりませんでした。しかし、「二」に言う「人道」を追求する余り、人類は地球の生態系を破壊することまで来ていることがわかり、地球の生命(生態系)を守るために、天道(誠)の優位性にたかえらなければならぬことを確信するに至りました。

三浦梅園はすべからず自然哲学者でしたが、誠を何よりも大切にしました。同じ時代の朝鮮の天文学者(宇

宙無限論者)洪大容も実心を強調しました。地球を発見し、実心を大事にした実心実学は、十七・十八世紀の東アジア共通の良質な思想遺産です。地球の生態系を守るために実心実学から学ばなくてはなりませんか。

(おかわ・はるひさ)二松学舎大学院教授、東アジア思想史)

「中庸」を実学と呼んだところから始まります。南宋の朱子がこれを受け継ぎ、朱子学の発展と共に儒学が実学と意識されるようになった。「中庸」は後半で「誠」の哲学を論じていますので、程伊川によって提起された実学の「実」は誠の意を深く帯びることに

なり。儒学が実学と観念されま

す。儒学は修己治人の学

ですから、実学は修己と治

人の二つの側面をもつ概念

となり、また修己は実心に

なります。十八世紀の哲学者三浦梅園の「誠といふの説」を

読んで、誠が自然界の論理

よいでしょう。しかし、その

中でも植物が一番忠実に

それを示しています。

梅園は人間を、人道(学

習や制作)を以て人と為る

側面と、天道に順って人と

成る側面の統一と解しま

した。「礼文以て人を修

め、誠実以て人を成す」と

(偽)をつきますが、自然

は意識をもちません(無

意)から、いつわりがあり

ません。

誠をこのように解します

と「誠者天之道也」という

規定はまことにその通りだ

と納得しました。天は自然

の意です。梅園は具体例と

して植物の(種)を挙げ

ます。実は条件さえ整え

ば、芽を出し、花をさか

せ、実を結びます。この必

然的過程は、実の中に誠が

あるからだと言います。樹

誠に立ち返り生態系を守る

文化

木の生長の中断のなき、人が見ていようがいまいが、着実に自分の営みが続ける、この中断のなきは何も植物に限られません。生命

あるもの、生物の本質です。意識をもつ人間を除く生物の論理、法則といってよいでしょう。しかし、その中でも植物が一番忠実にそれを示しています。

梅園は人間を、人道(学習や制作)を以て人と為る側面と、天道に順って人と成る側面の統一と解しました。「礼文以て人を修め、誠実以て人を成す」と(偽)をつきますが、自然は意識をもちません(無意)から、いつわりがありません。

誠をこのように解しますと「誠者天之道也」という規定はまことにその通りだと納得しました。天は自然の意です。梅園は具体例として植物の(種)を挙げます。実は条件さえ整えば、芽を出し、花をさかせ、実を結びます。この必然的過程は、実の中に誠があるからだと言います。樹木は長い間、後者の意味がわかりませんでした。しかし、「二」に言う「人道」を追求する余り、人類は地球の生態系を破壊することまで来ていることがわかり、地球の生命(生態系)を守るために、天道(誠)の優位性にたかえらなければならぬことを確信するに至りました。

三浦梅園はすべからず自然哲学者でしたが、誠を何よりも大切にしました。同じ時代の朝鮮の天文学者(宇